

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピースマイル 本店		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職によるリハビリ特化型の療育が充実しており、こどもの発達に合わせた質の高い支援が提供されている点	専門職が連携してリハビリ特化型の療育を行い、こどもの発達段階に合わせた支援を日々工夫している	こどもの成長に合わせて支援内容を柔軟に調整し、より心地よく過ごせる環境づくりを続けていくことを目指している
2	アセスメントに基づく個別支援計画が丁寧に作成され、職員間の連携により安定した支援が行われている点	アセスメント結果を丁寧に共有し、個別支援計画に基づいた一貫性のある支援を職員全体で意識している	職員間の連携を大切にしながら、よりスムーズに情報共有できる体制づくりを少しずつ進めていくことを意識している
3	保護者との情報共有が丁寧に信頼関係が強く、家庭と連携した支援が継続的に行われている点	保護者との対話を大切に、日々の様子や成長を丁寧に伝えることで家庭と連携した支援を心がけている	保護者との対話を大切に、安心して相談できる雰囲気づくりを今後も自然な形で深めていきたいと考えている

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会がまだ広げられる余地があり、今後の成長につながる伸びしろがある点	地域交流の機会が限られているのは、専門的な療育に力を入れているため活動が事業所内中心になりやすいことが背景にある	地域とのつながりを自然に広げられるよう、無理のない範囲で交流の機会を少しずつ増やしていくことが必要と考えている
2	災害・緊急時対応の周知方法に改善の余地があり、より安心しただけの体制づくりの可能性がある点	災害・緊急時対応の周知が十分に伝わりにくいのは、このような状況がないため、常に発信する情報は療育・子どもも多いという点が大い	災害・緊急時対応の安心感を高めるため、保護者への周知方法を分かりやすく工夫していくことが求められている
3	事故発生時の説明に統一感を持たせる余地があり、より丁寧な情報提供へつながる改善の機会がある点	事故発生時の説明にばらつきが生じるのは、職員が迅速に対応しようとする中で伝え方に個人差が出やすいことが背景にある	事故発生時の説明をより統一的に行えるよう、伝達方法の整理や共有を進めていくことが今後の課題となっている